

横浜市東部方面斎場 (仮称)の整備について

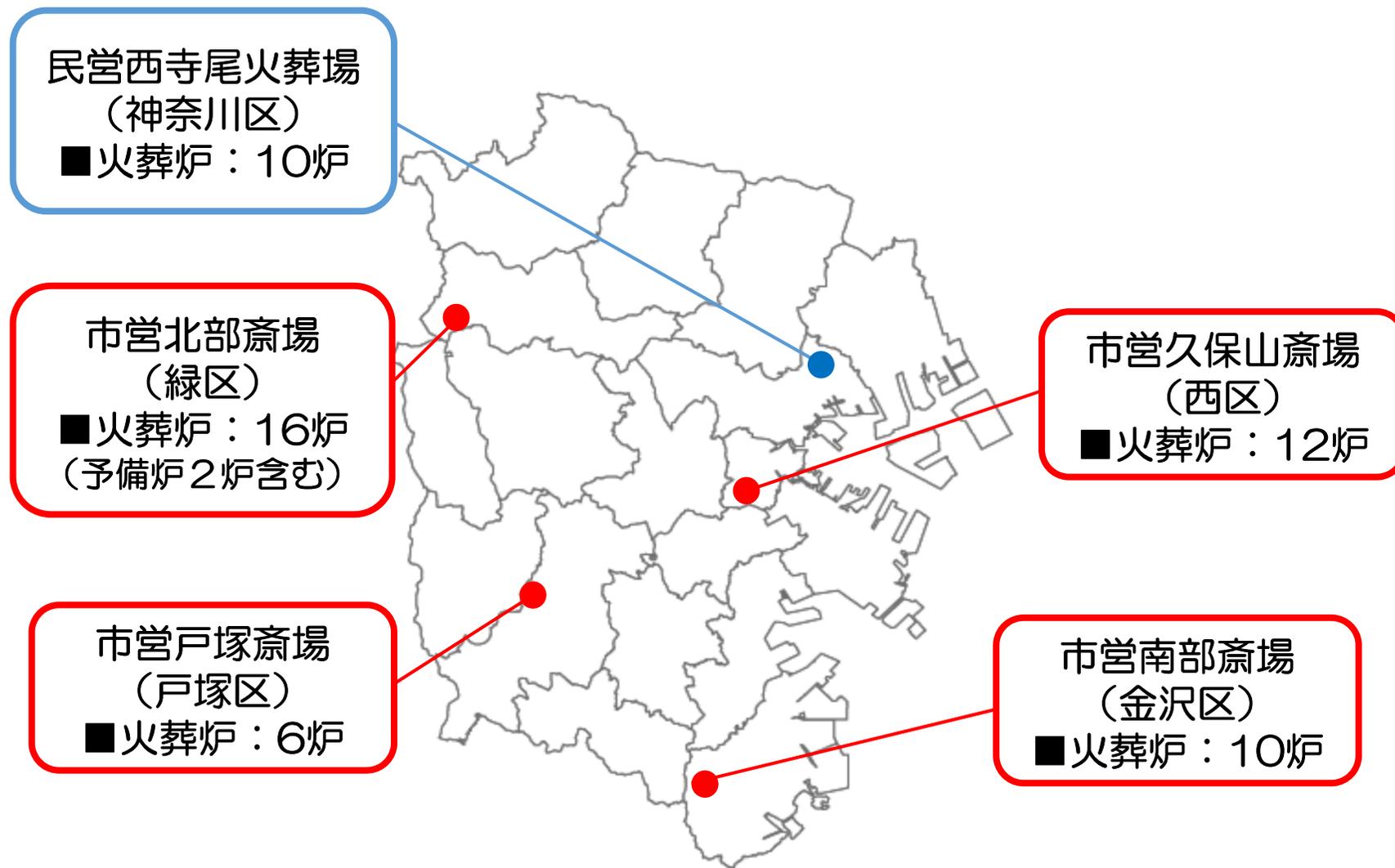
日 時 令和6年7月26日(金) 18時30分～
令和6年7月27日(土) 10時00分～
場 所 生麦地区センター

横浜市 健康福祉局 環境施設課

目次

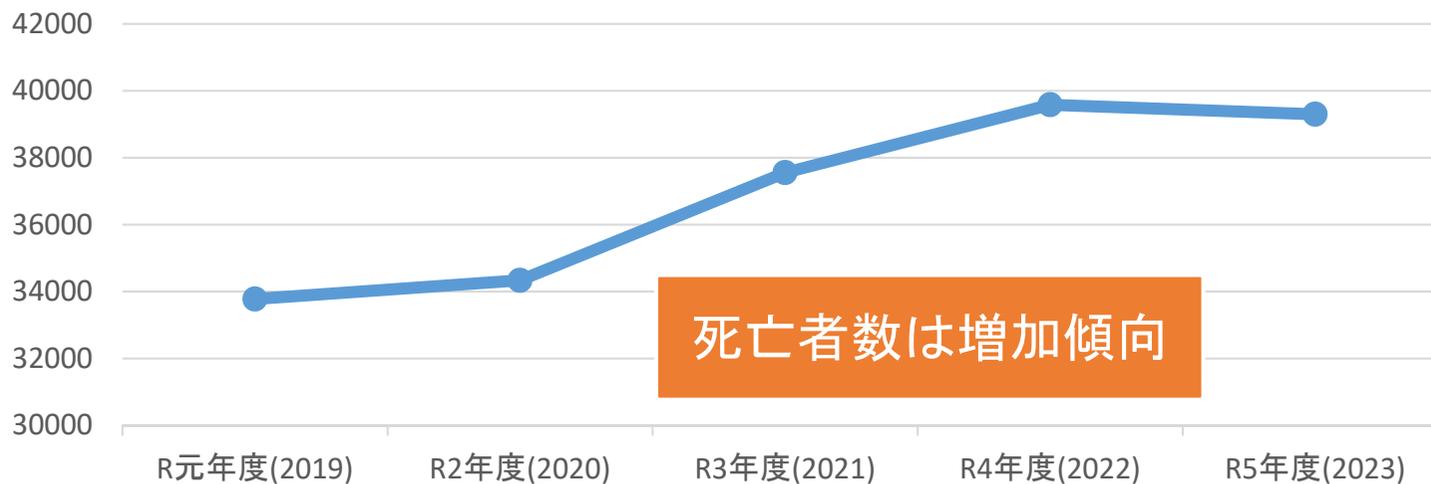
- I 横浜市の現状
- II 建物の設計
- III 今後のスケジュール

市内斎場の配置図(現在)



I 横浜市の現状

最近5か年の市内死亡者数



	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
死亡者数	33,778人	34,337人	37,555人	39,583人	39,300人
前年比	+614人	+559人	+3,218人	+2,028人	-283人

I 横浜市の現状

市内斎場の火葬実績

(単位:件)

年度	市営斎場		久保山斎場	南部斎場	北部斎場	戸塚斎場	民営	合計
	合	計					西寺尾 火葬場	
令和元年度 (2019)	31,471		9,798	6,300	10,408	4,965	2,355	33,826
令和2年度 (2020)	31,095		8,675	7,666	10,643	4,111	2,402	33,497
令和3年度 (2021)	32,868		8,226	8,216	12,307	4,119	2,467	35,335
令和4年度 (2022)	34,459		8,970	7,344	12,608	5,537	2,639	37,098
令和5年度 (2023)	36,531		10,979	7,117	12,856	5,579	2,312	38,843

近年、増加傾向

I 横浜市の現状

市営斎場の火葬待ち日数

	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
4斎場 平均	4.49日	4.56日	5.49日	5.81日	4.92日

※ 日数の計算方法

(法律の規定により死亡後24時間以内は火葬ができないため、死亡日の翌日から起算)

※ 令和3年度、令和4年度は、既存斎場の長期的な修繕が行われたことが原因

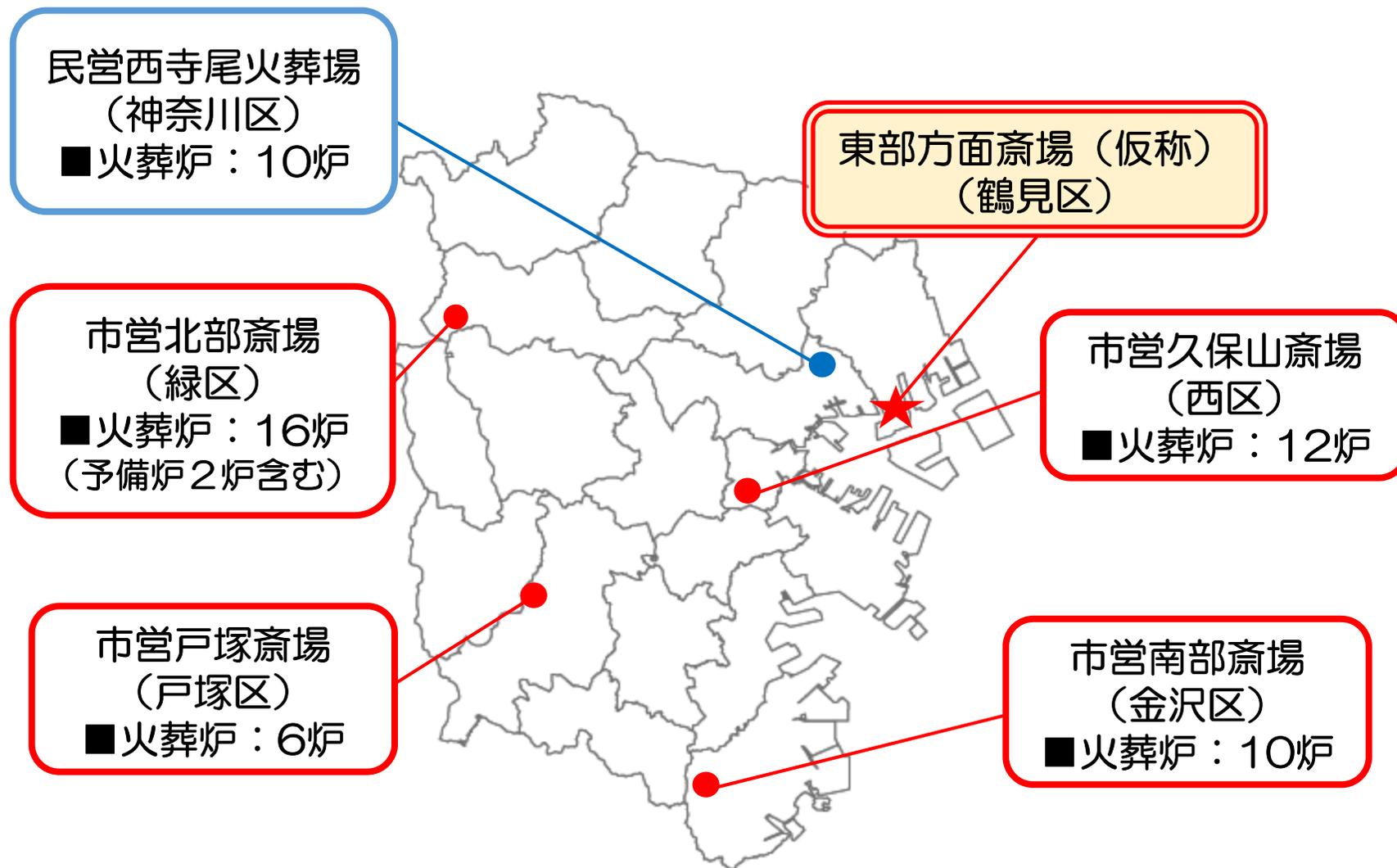
I 横浜市の現状

横浜市の死亡者数推計



※令和2年国勢調査(令和2年10月1日時点)の人口を基準とした推計

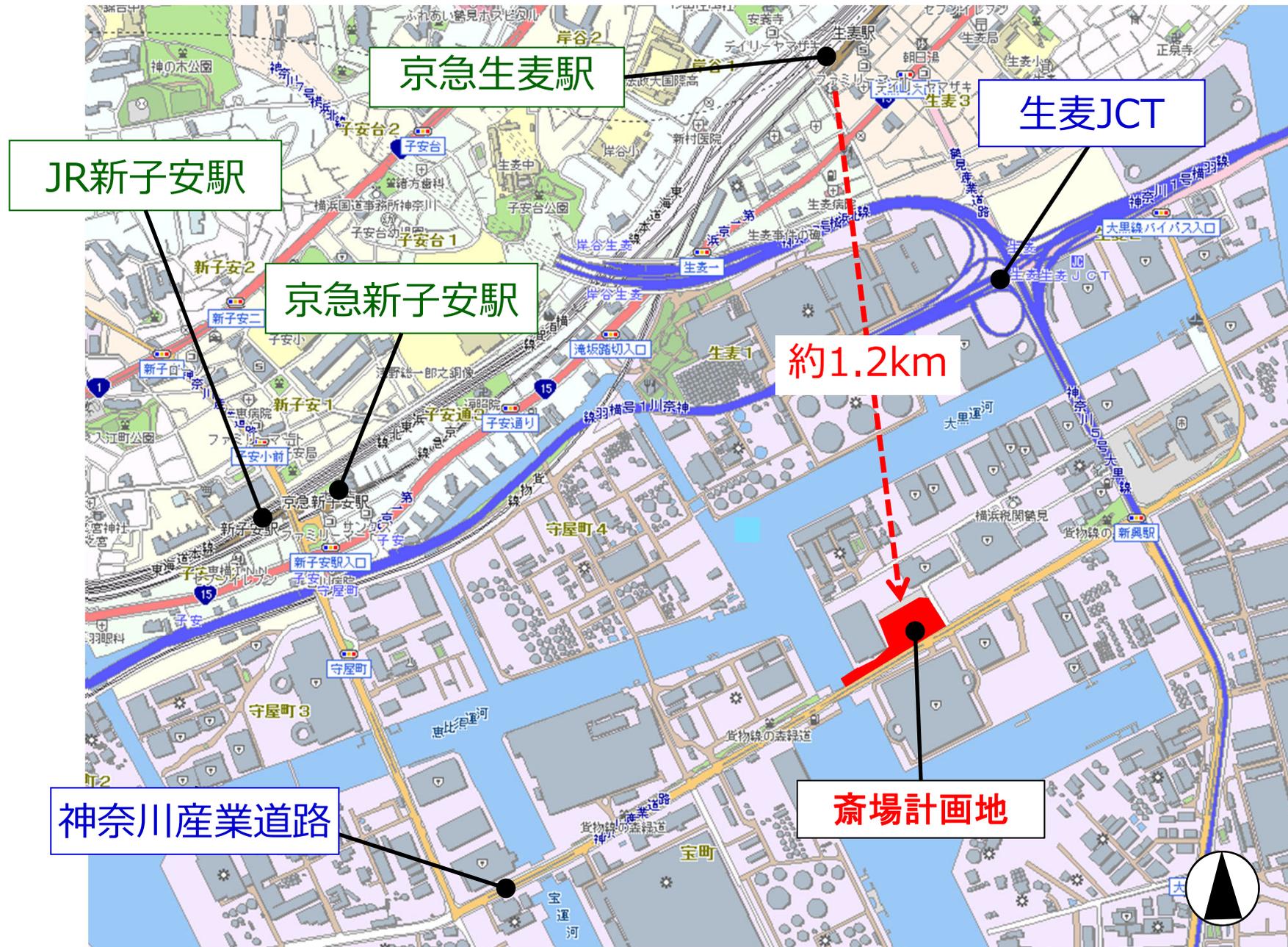
市内斎場の配置図(計画)



目次

- I 横浜市の現状
- II 建物の設計
- III 今後のスケジュール

Ⅱ-1 計画地



Ⅱ-2 整備概要

所在地	鶴見区大黒町18-18ほか	敷地面積	約11,000㎡
用途地域	工業専用地域	延床面積	約22,000㎡
建蔽率 容積率	60% (緩和により70%) 200%	整備費	約251億円

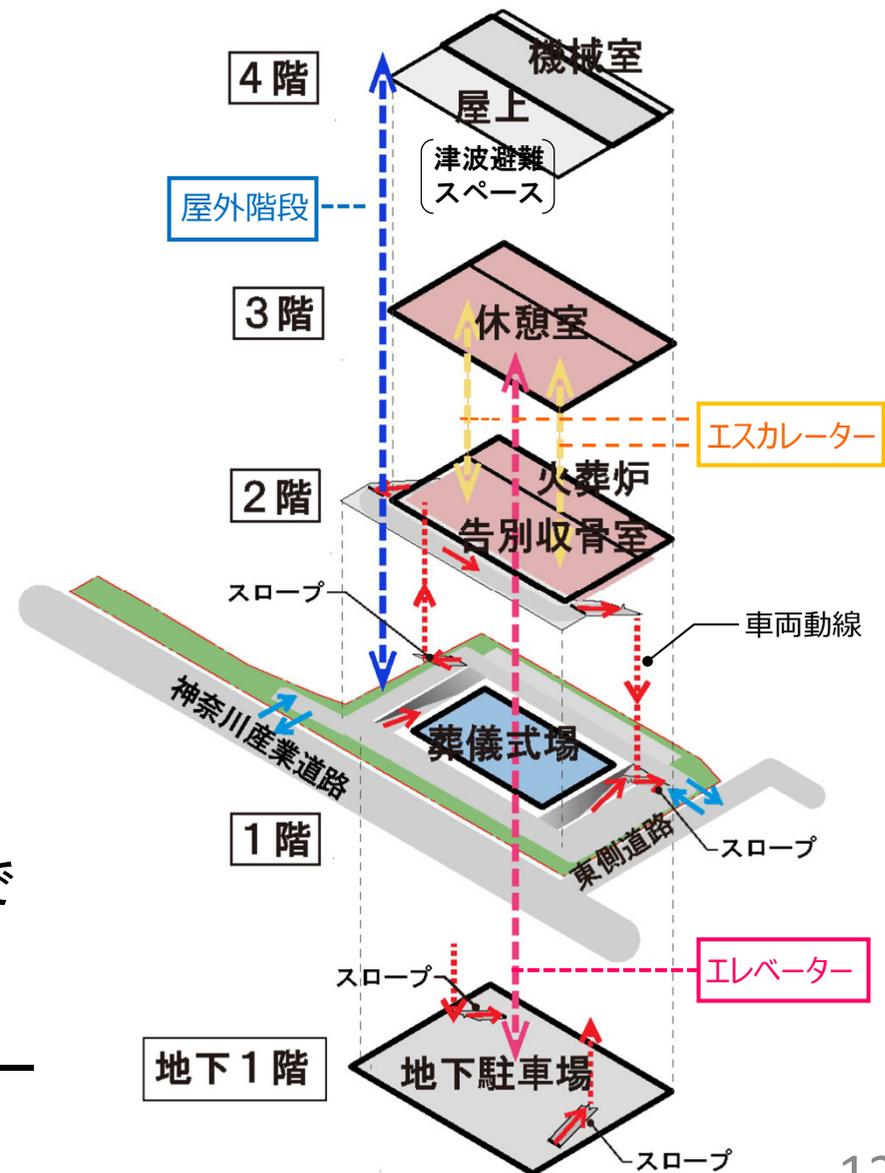


Ⅱ-3 建物構成



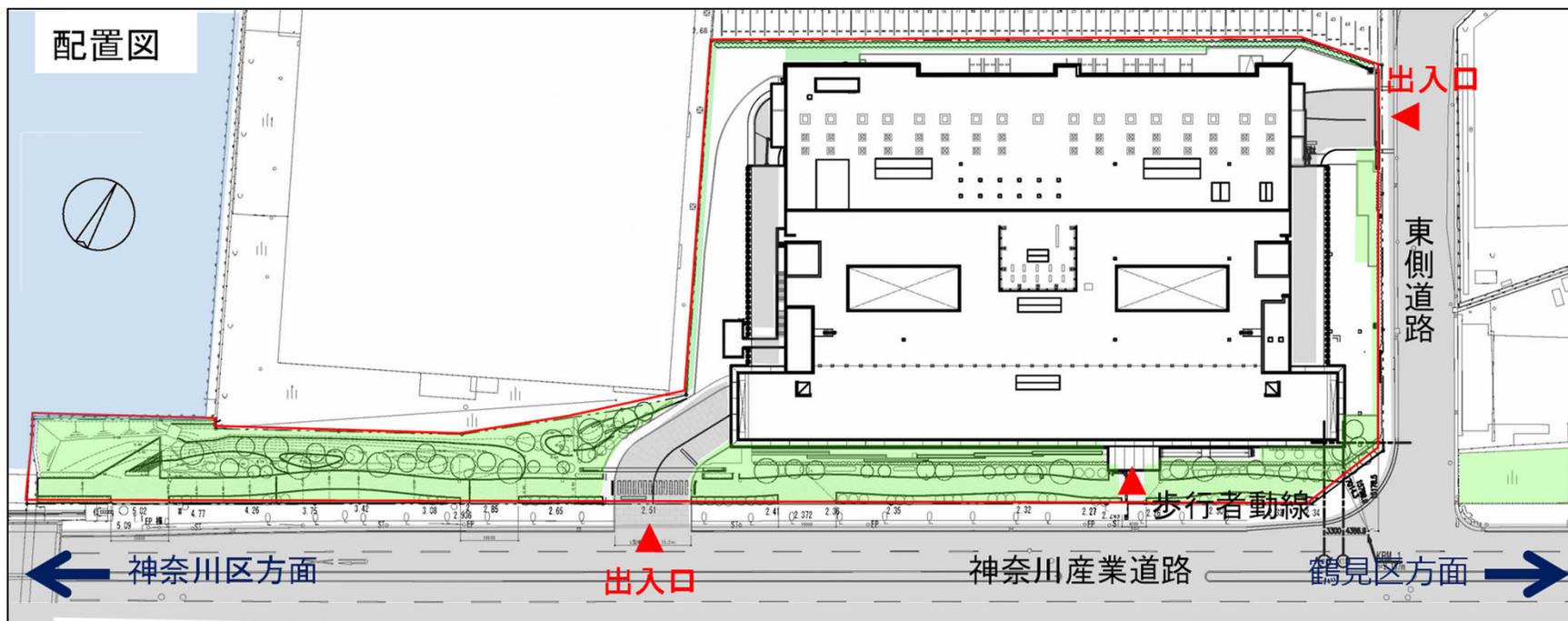
【各階へのアクセス】

- ・車両は、スロープで地下1階の駐車場や2階の車寄せにアクセスします。
- ・斎場利用者は、地下1階から3階までエレベーターで上下します。
- ・2階から3階の移動は、エスカレーターも利用できます。



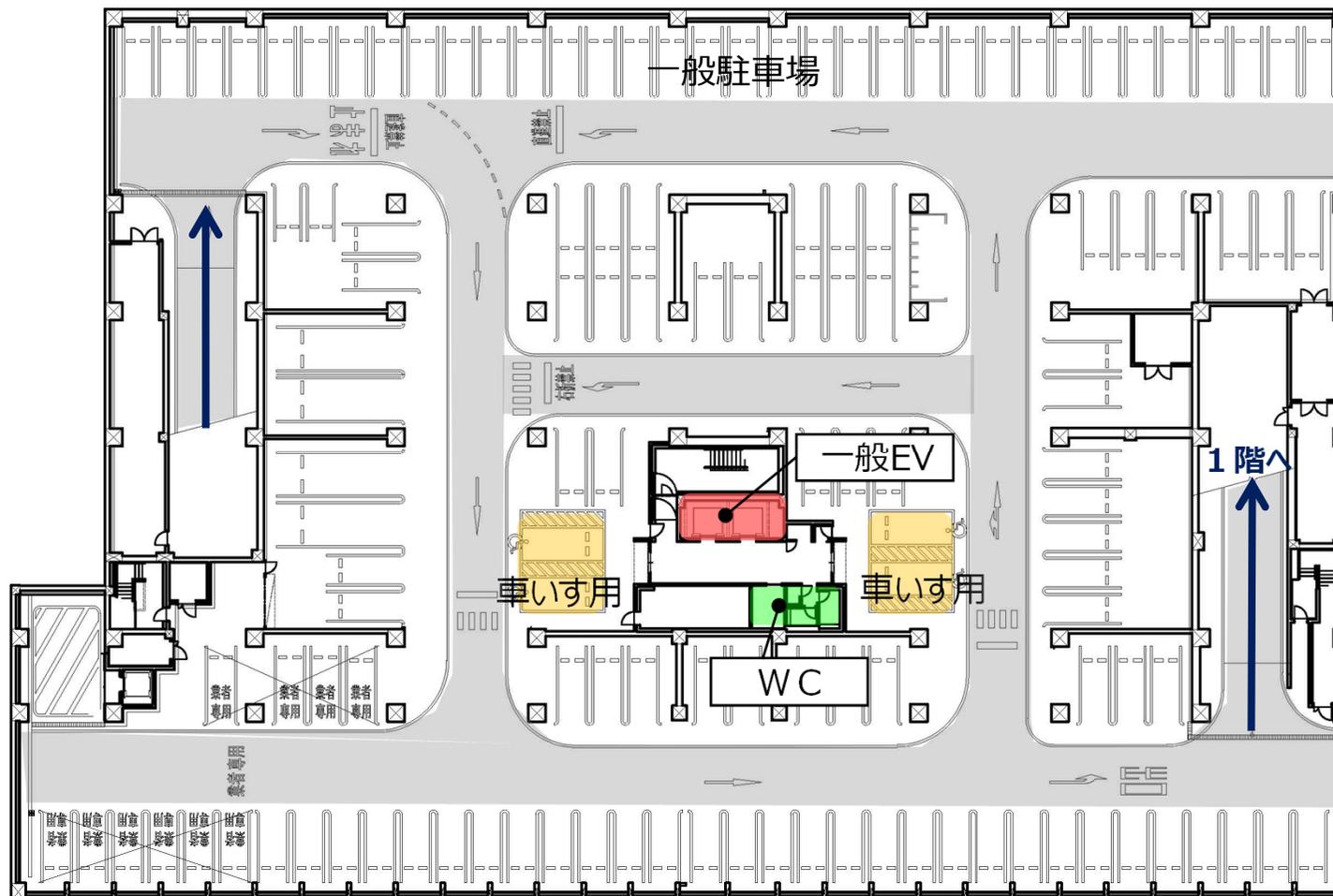
Ⅱ-4 配置計画

- ・車両の出入口は南側の神奈川産業道路及び東側の市道に1か所ずつ設けます。
- ・神奈川産業道路の沿道には、緑地を整備し、歩行者の出入口を設けます。



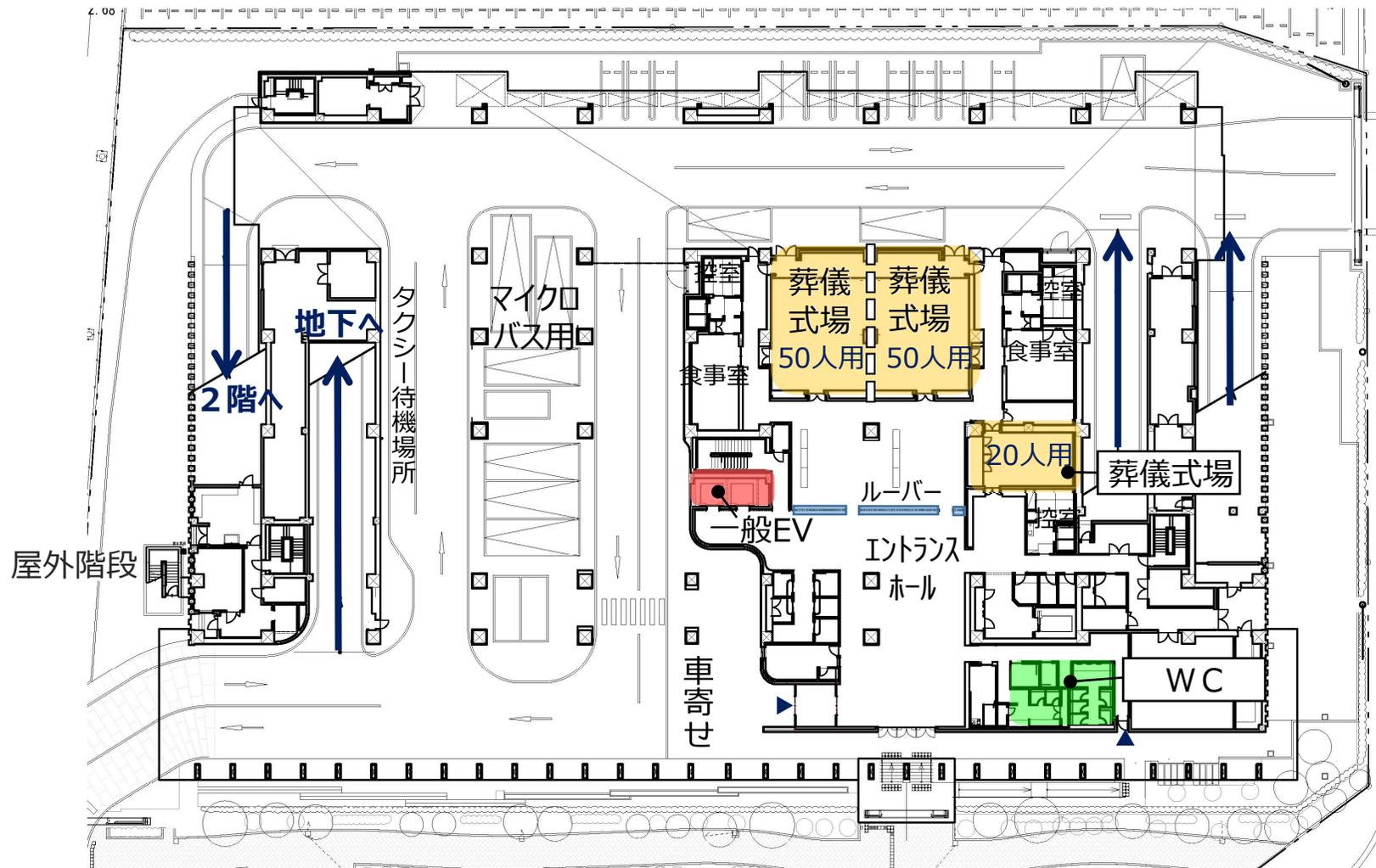
Ⅱ-5 地下1階平面図

- ・ 地下1階は駐車場とし、1階と併せて150台設けます。
車いす用駐車場を4台設置します。
- ・ 中央部に3階まで連絡する24人乗り大型エレベーターを2機設けます。



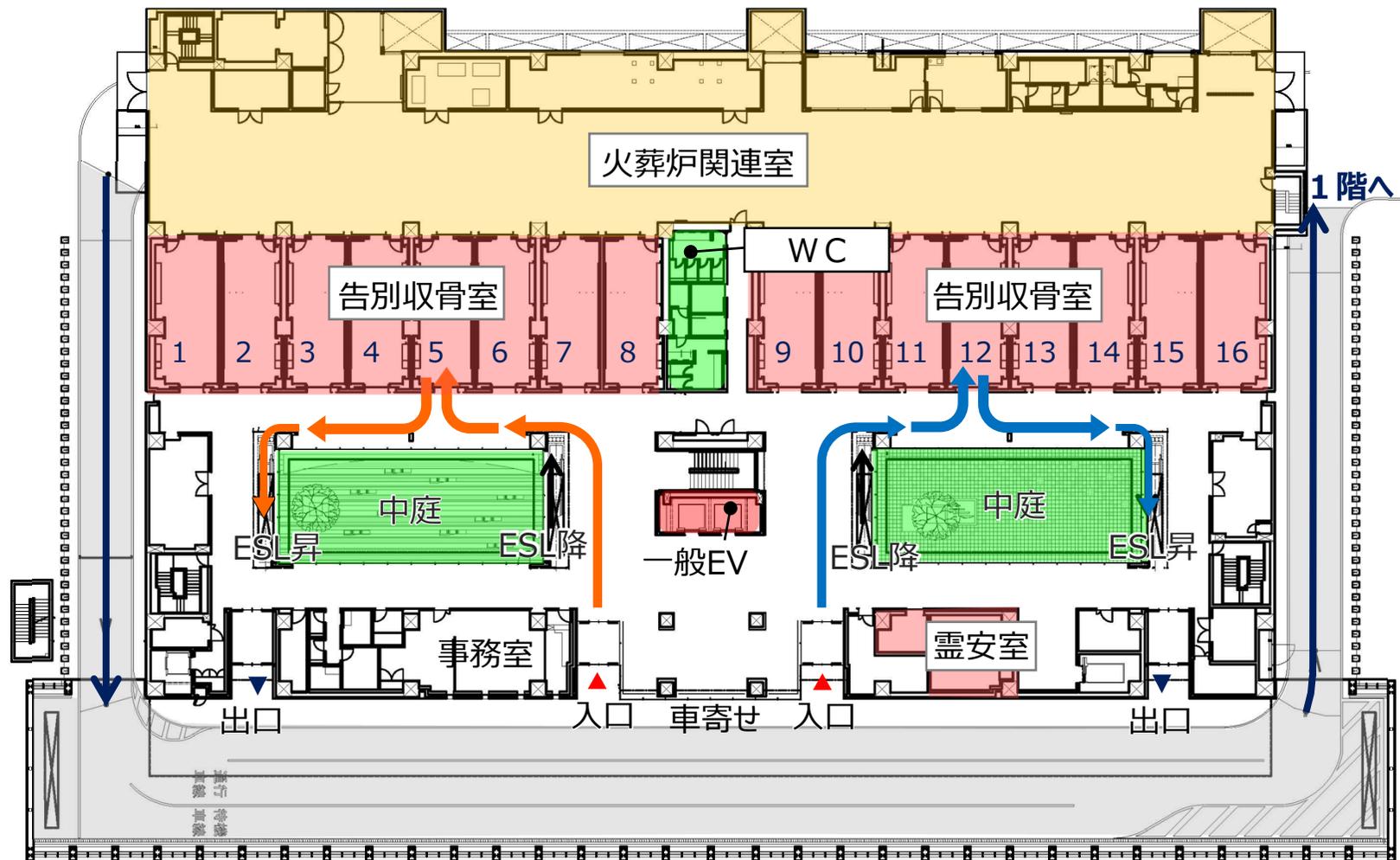
Ⅱ-5 1階平面図

- ・ 1階は主に、通夜・告別式等を行うフロアです。
- ・ 葬儀式場は約50人用を2室と、葬儀の小規模化傾向を踏まえ約20人用を1室設けます。



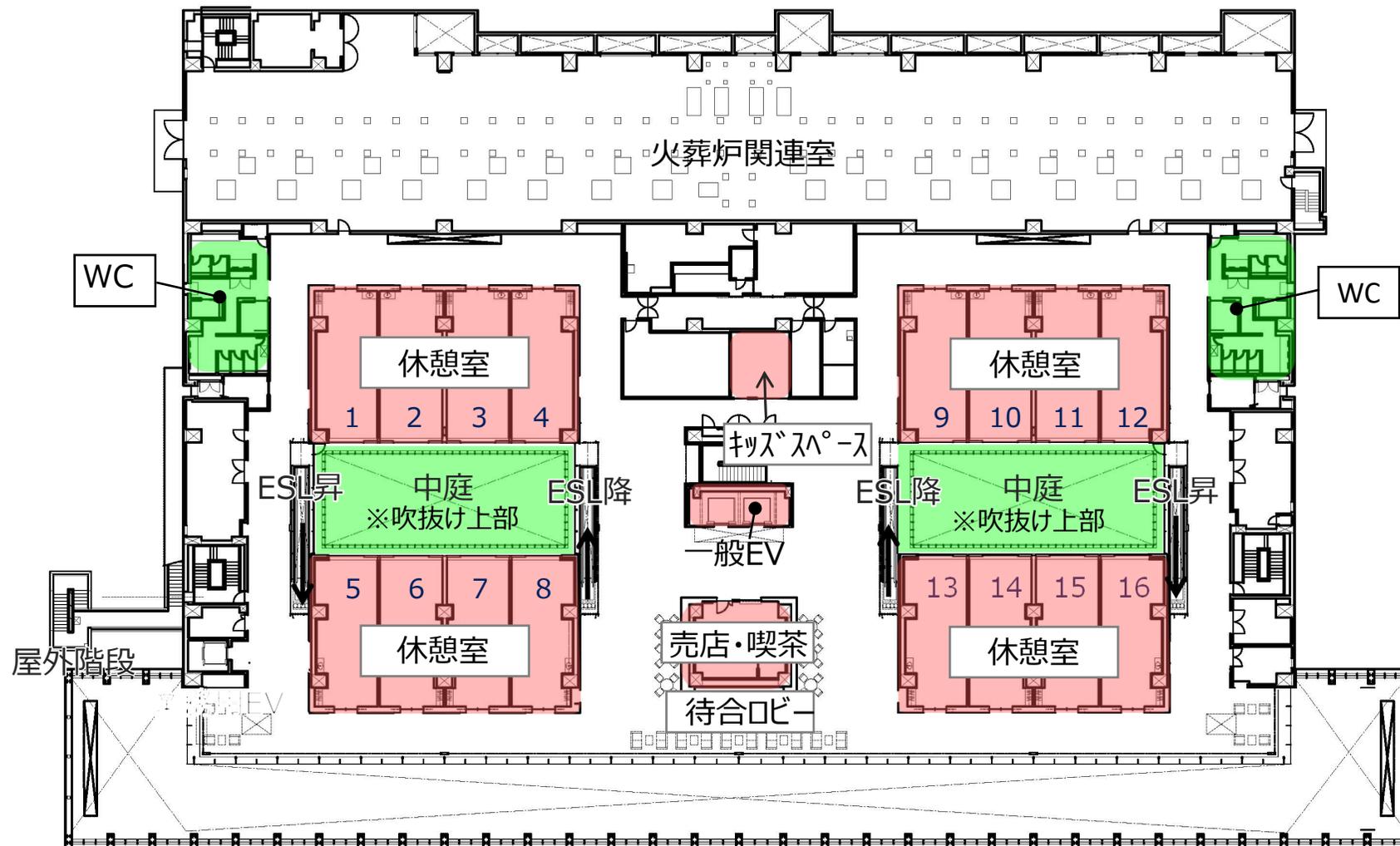
Ⅱ-5 2階平面図

- ・ 2階は火葬を行うフロアとして、火葬炉16炉を北側部分に配置し、火葬炉1炉に対して炉前ホールを1室整備します。
- ・ 斎場利用者の動線は左右、一方向に流れるようにし、混雑緩和を図ります。
- ・ 霊安室は、ご遺体を10体お預かりします。



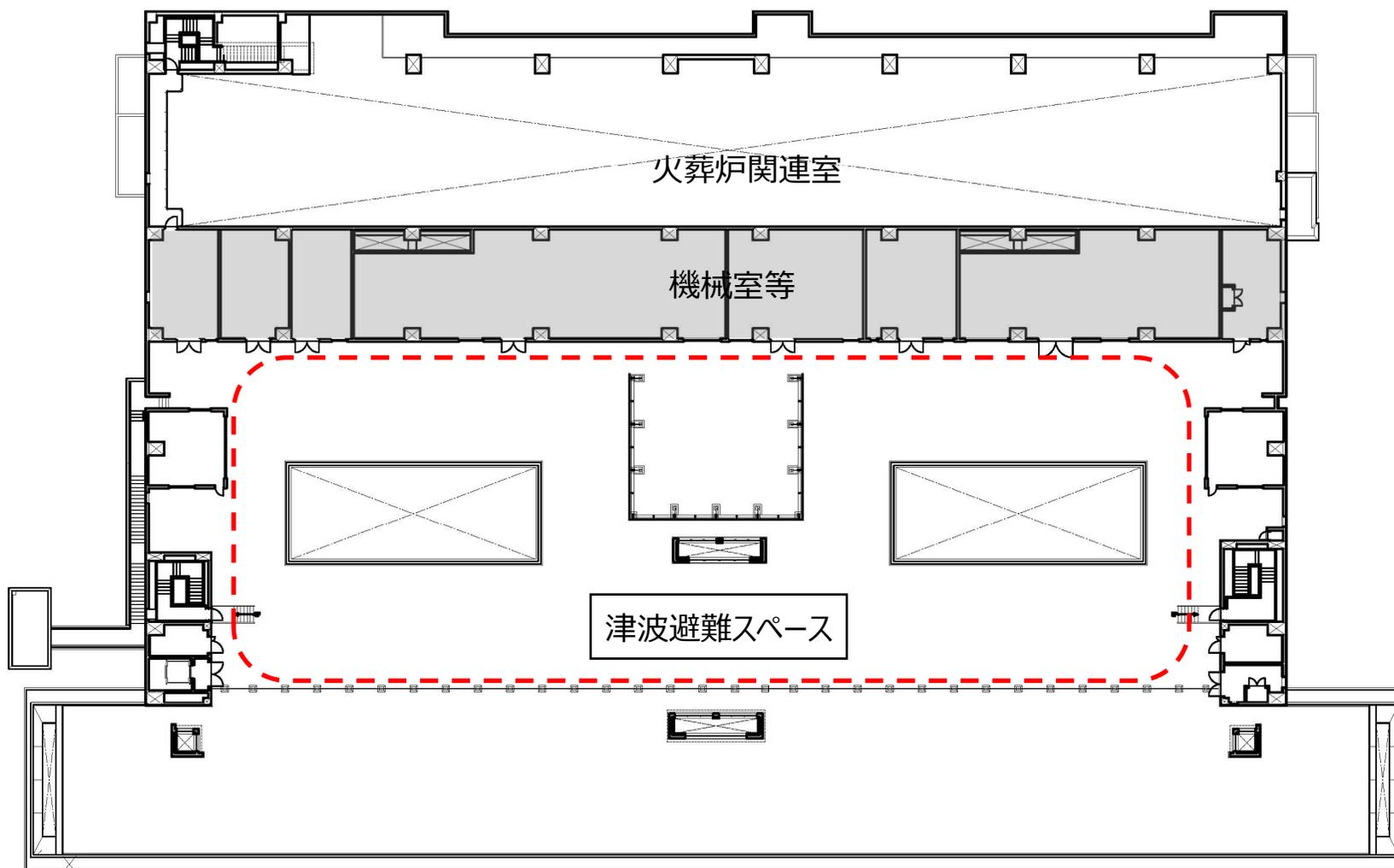
Ⅱ-5 3階平面図

- ・ 3階は火葬の間、ご遺族や会葬者の方にお待ちいただくフロアです。
- ・ 休憩室(40人用)を中庭に面し、火葬炉と同数の16室配置します。
- ・ 中央部分に待合ロビーや売店・喫茶機能のほか、キッズスペースを設けます。



Ⅱ-5 4階平面図

- 4階は北側に機械室等を配置し、南側には津波発生時の避難スペースを確保します。

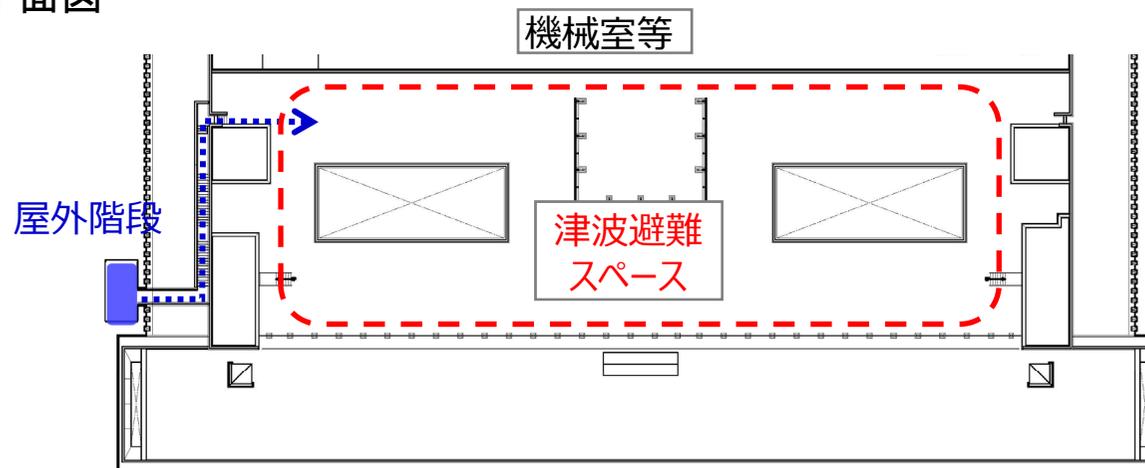


Ⅱ－6 災害対策

計画地は臨海部に位置するため、高潮（被害想定：0.5m～1m）や津波（被害想定：1m～2m）による浸水被害が想定されています。

- ・ 1階床レベルを既存地盤から約1m高くするとともに、火葬炉や受変電設備等の重要機器は津波による浸水深以上に設置します。
- ・ 都市ガスや電力等のインフラが途絶した場合に備え、非常用発電機等の対策を計画しています。
- ・ 津波発生時には、斎場利用者のほか計画地周辺の方々の一時的な避難施設として活用できるよう、屋上に避難スペースを確保し、斎場外部からアクセス可能な屋外階段を設けます。

4階平面図

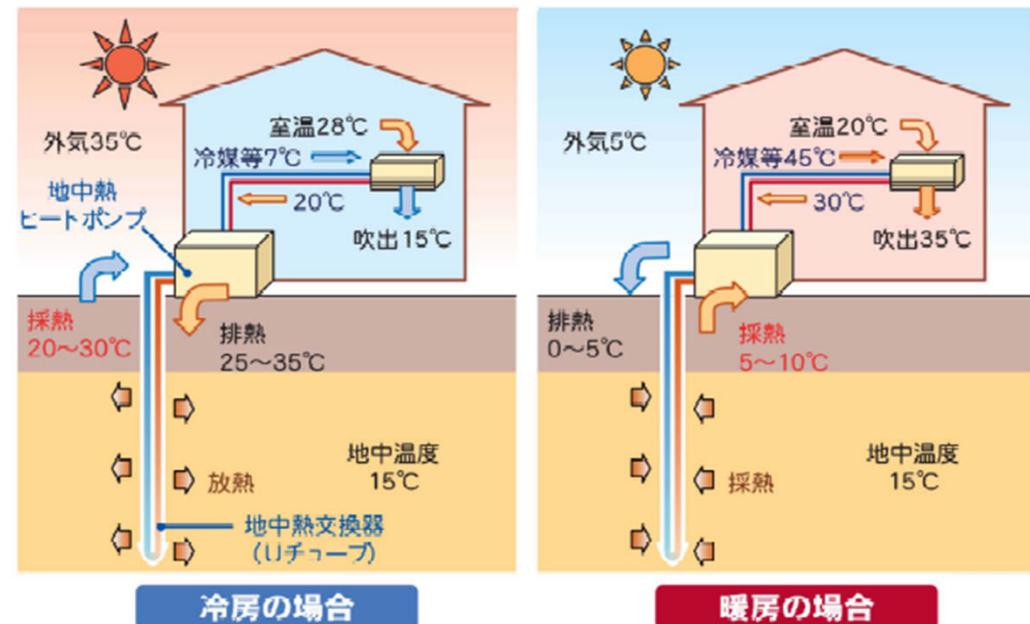


Ⅱ-7 環境配慮

- ・ 建築物の省エネ性能を高めるため、高効率型の機器を採用するほか、太陽光発電や地中熱等の再生可能エネルギー利用を導入し、環境への負荷低減を図ります。



■ 横浜市役所の太陽光パネル
出典：横浜市新市庁舎紹介 パンフレット



■ 地中熱利用イメージ
出典：環境省 [2021年3月]
地中熱利用システム パンフレット

Ⅱ-7 環境配慮

- ・木質化に取り組むとともに、緑地等も整備し、生物多様性の保全に配慮します。



■南区総合庁舎の木質化
出典：神奈川県ホームページ
木造公共施設整備事業の事例



■緑地の整備イメージ
撮影場所：貨物線の森緑道

目次

- I 横浜市の現状
- II 建物の設計
- III 今後のスケジュール

Ⅲ-1 現場状況

現場全景 (R6年7月時点)



R4、5 土木工事



R5 地中熱工事



Ⅲ-1 現場状況



仮囲い設置



仮設事務所



地盤改良(静的締固め砂杭工法)

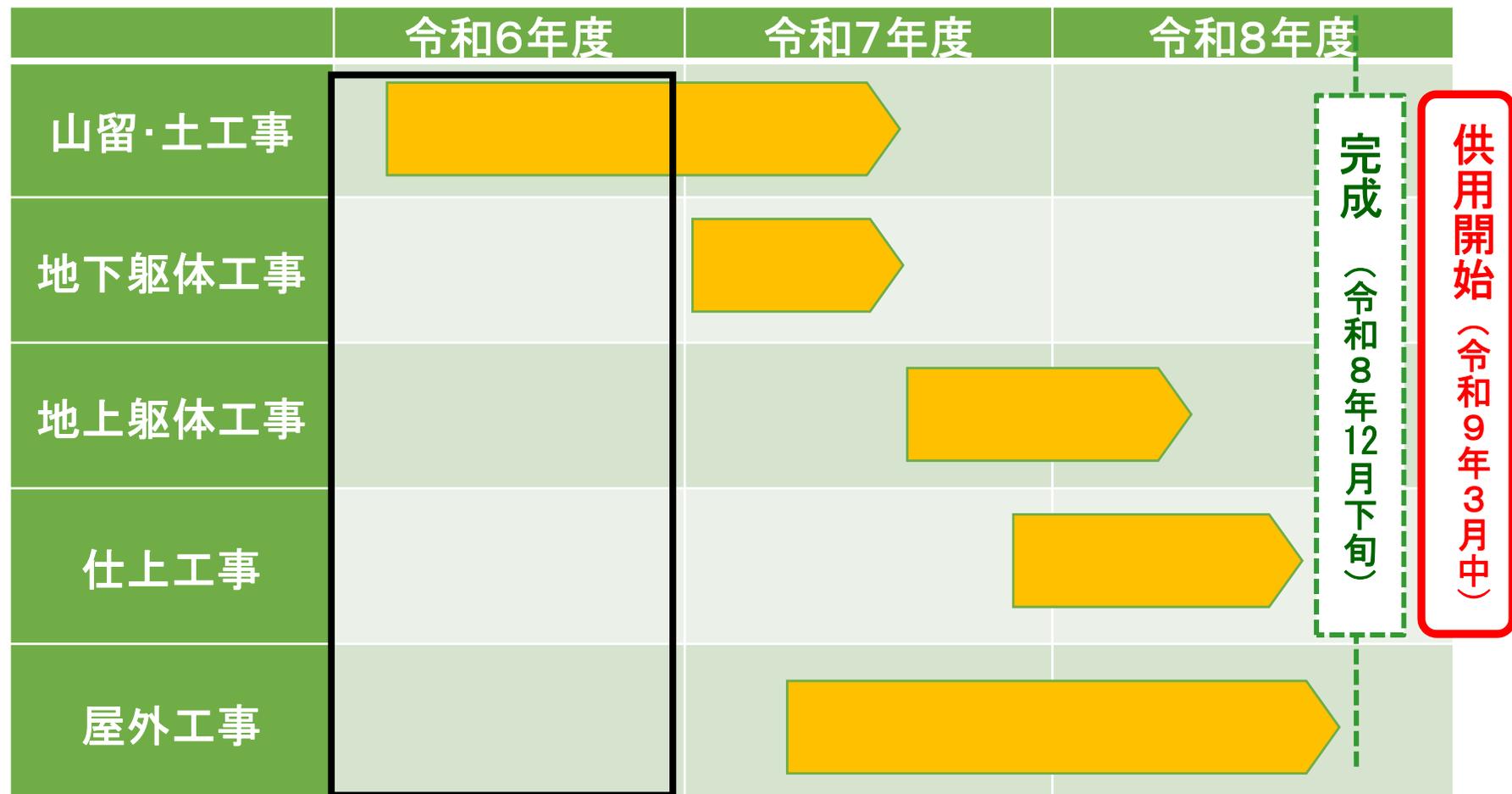


ケーシングパイプ先端

Ⅲ-2 今後のスケジュール

■ 建物本体工事の工程

齋場建物の完成は令和8年12月下旬となり、齋場の供用開始時期は、「令和9年3月中」となる見込みです。



Ⅲ-3 工事中の車両動線

作業所付近見取図 (→ 車両ルート)



Ⅲ-4 内観イメージ

3階 休憩室



3階 待合ロビー



2階 車寄せ



1階 葬儀式場



※内観は設計図を基にしたイメージです

ご清聴ありがとうございました

《問合せ先》

横浜市健康福祉局 環境施設課 斎場整備担当

TEL : 045-671-4386 FAX : 045-664-6753

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10